

### 第3回 明石港東外港地区再開発計画検討委員会 議事要旨

1. 開催日時 平成 29 年 5 月 12 日（金） 10:00～
2. 開催場所 明石市立勤労福祉会館 2階多目的ホール
3. 出席者（敬称略、50音順）
  - 雨宮 功（兵庫県県土整備部土木局港湾課長）
  - 伊藤 一（中崎まちづくりの会 会長）
  - 岩崎 日出夫（兵庫県東播磨県民局加古川土木事務所長）
  - 大橋 健一（明石工業高等専門学校 名誉教授）
  - 檜原 一法（（一社）明石観光協会 専務理事）
  - 柏木 千春（流通科学大学 教授）
  - 酒井 貴司（近畿地方整備局港湾空港部 計画企画官） ※代理出席：三村 正樹
  - 西海 正隆（明石商工会議所 副会頭）
  - 橋本 浩司（明石市連合まちづくり協議会 顧問）
  - 福田 成男（明石市理事（技術担当））
  - 宮脇 俊夫（明石市政策局長） ※代理出席：久保田 智
4. 議事
  - 1) 第2回委員会における主なご意見とその対応
  - 2) 委員会の経緯と今後の予定
  - 3) 土地利用の考え方と導入機能
  - 4) 今後の進め方
5. 主な質問・意見

#### 質問

質問	回答
クルーズ機能が本当に必要かどうか、今後も含めてバックデータの整理が必要。	全国的な流れとして、2016年のデータでは、全国で2,000隻ほどの外航クルーズ船で200万人の外国人が訪れています。 また、2020年に訪日クルーズ旅客500万人を目指し、官民挙げて取り組むことになっています。 明石港においても、ジェノバラインが運航するクルーズについて、3年間で31回の実績があり、毎回満員で大変好評とのことでした。

<p>子育て環境や教育の場を充実させて、この地域の内面性・グレードを上げる一方で、市外からの来訪者も呼び込むとなると、結果、中途半端なものにならないか。</p>	<p>基本的には、遠方から人を呼び込むこととし、同時に近隣の人に対しても、環境に配慮して、両立するという視点で検討しています。</p>
<p>駐車場不足について、ここにある必要性、が判る資料になっていない。中心市街地周辺や大蔵海岸なども含めた広いエリアで捉え、計画地へ戦略をブレイクダウンするとき、駐車場が入ってくると思う。</p>	<p>駐車場の整備は、中心市街地エリアの課題であり、加えて、かねてからの強い要望事項でもあります。今後、計画地での必要性などを整理し、次回の資料に反映します。</p>

## 意見

### <再開発の戦略に関して>

- 都市計画に関わる事業や観光計画が、それぞればらばらに、区域ごとに議論されていることや、情報交流がなされていないというところに問題を感じる。買いたいという商品のブランド、行きたいという観光地としてのブランド、住みたいという居住地としてのブランド、この3つを統合させて、どういうまちにしたいか、50年先、100年先に明石市はどういう未来像を描くのかというところが不十分なため、明石という都市のブランドをどうやってつくっていくかということ、この委員会とは別に体系化して議論する必要がある。
- ブランディングについては、機能だけでは人は集まらず、リピートにもつながらない。観光の場合、情緒的な面が非常に大切で、ここはどんな楽しさやワクワク感があり心をときめかせてくれるのか、どんな経験をさせてくれるのか、というものがなく人は集い続けない、愛着を持たないと思う。機能が重要であるのと同様に、来訪者にどんな経験価値を持たせるのかも重要。そうすれば、ある程度主要なターゲットが見えてきて、それに合わせた具体的な施策が出てくる。
- 明石は子育てに力を入れており、子供を核としたまちづくりを進めている。優しいまちづくり、住みよいまちづくりというのが明石の一番大きなスローガンだと考える。

### <土地利用の考え方に関して>

- 土地利用の考え方が6つ挙げられているが、それぞれが並列ではなく、どれを重視していくのが鍵になり、それによって何が重要なのかというストーリーづくりが必要。
- 6つの考え方の多くが市民の手にウォーターフロントを取り戻すという視点に基づいており、そこに地元の議論を入れるという方向性は良いと思う。
- 土日だけ賑わって平日が閑散とすると経営的に難しくなる。バス駐車場があり、観光客が訪れて、回遊でき、かつ、市民が平日休日問わず行けるような、複合的な方向性を出してほしい
- 地元地区の要望と、来訪者を増やすという、内面と外面の問題を両立させる必要がある。そうでなければ、例えば民間開発の自由度を高め何かを誘致するといった場合に、明石の住民が何も関わることができず、まちの活力の向上につながらない。人材を育成して、商業者にもまちの未来を担う子供たちにも関わってもらい、という視点が必要。

- 再開発された計画地が在ることによって、既存の中心市街地、大蔵海岸、そして市中がいかに関わっていくかという、広いエリアでの視点も必要。
- SWOT分析について、①計画に関する事か市内に関する事か、②住民向けか来訪者向けか、③需要側の事か供給側の事か、という視点で再整理すれば、土地利用の考え方のどれに重みがあるかが見えてくる。

### <導入機能に関して>

- 明石の特産品である鯛やタコなどを食べることができる店があるにはあるが少ない。舌が肥えて財力がある熟年層、特に女性はターゲットになり得るのではないかな。
- 物産機能だけを持ってくるのではなく、体験型の施設、例えばタッチプールや、せりへの参加などは有効であると考えます。また、タコつぼオーナーや漁船での漁体験を、明石の一部の漁協で実施しているが、大阪方面からも参加者が来るなど、体験型の観光として人気がある
- 水産物分場の移転も考えられるのではないかな。現在の分場には駐車スペースがなく不便であり、長い目で見ると、やはり広い場所でやるべき。
- 駐車場が無く、ここでゆっくりとしようという雰囲気がない。広いスペースをとって駐車場と土産物屋、食育をするなど、総合的なものができたらいい。
- 淡路島、家島、姫路、小豆島などへのクルーズがあるといいのではないかな。
- 加古川ゆかりの棋士が活躍するなど、将棋といえば加古川となっているが、明石でも囲碁も含めて将棋は非常に盛んであるため、将棋会館のようなものを作っていただき囲碁将棋に取り組む場所がほしい。そこで人材を育て、才能を伸ばし、子どもに元気になってもらいたい。そして、子どもが来れば親も訪れ、また違った取組みも行える。
- 魚の体験型施設やキッズニアのような職業体験などは、明石にはないため、是非取り組むことができたらと思う。
- SWOT分析の弱みの項目は、旅行会社からの指摘と同じである。明石への観光客はほぼ日帰りであり、広域で連携しないと生きていけない。特に、観光バスの駐車場不足は大きな問題であり、たこフェリー跡地を駐車場として利用した際は、年間700台が利用していた。マンション建設により、大蔵海岸を利用するようになってからは、300台程へ半減した。平均滞在時間も、3時間から1時間へ減少している。
- 道の駅が、観光地でなくとも賑わっているのは、自動車で来ることができるから。子育て世代、孫を連れて祖父母の移動手段として車は欠かせない。そのような視点から、計画地を見る必要があると考えます。滞在時間が短いことについても、そういう視点で解決していくものだと思う。
- 訪日クルーズ旅客数の増加はここ数年で盛り上がりを見せているが、明石におけるクルーズは、長期的・恒常的な賑わいを生み出す可能性があると思う。明石のブランド化によって魅力を高め、淡路島に向かうサイクリストの増加という好機を活かし、交流人口を増やしていくものと考えます。

### <その他>

- 再開発事業者を広く募集することになると思うが、地元の事業者が参加しやすいような公募方法を考えてほしい。